

6 特色のあるまちづくり

6.1 特色のあるまちづくりに向けて

我が国では人口減少、少子高齢化が今後急速に進展すると見込まれていますが、この大きな課題に対し、各地域がそれぞれの特色を活かしながら活力のある地域の実現に向けて様々な取り組みを進めています。

本市でも、地域の魅力を高め、活力ある地域社会を築いていくために、今ある豊かな自然、美しい景観、歴史や文化、産業等本市の特色を活かした個性あるまちづくりを進めていくことがますます重要です。

そのため、本市ではまちの特色を活かした発展の方向性を見据え、下記の取り組みを推進します。

特色のあるまちづくりに向けた取り組み

- 中心市街地における重点整備地区の整備
- ときわ公園の魅力向上
- スマートコミュニティの推進



〔中央町三丁目地区〕



〔ときわ動物園〕



〔ときわ公園の彫刻〕



出典：宇部市スマートコミュニティ構想（2014年）

図 スマートコミュニティのイメージ

6.2 中心市街地における重点整備地区の整備

6.2.1 重点整備地区の位置付け

中心市街地は、行政機関、商業施設、医療施設等が立地し、本市における中心的役割を担う「まちの顔」として、極めて重要な場所となっています。しかし、商店街の衰退や市庁舎の老朽化等、様々な問題を抱えています。このため、これまで蓄積してきた都市のポテンシャルを活かし、都市拠点として中心市街地の整備を先導的に進め、にぎわいの創出を図ります。「にぎわいエコまち計画」では「宇部新川駅周辺地区」「市役所周辺地区」「中央町三丁目地区」を重点整備地区として位置付け、3地区を連携したまちづくりを進めることとしており、この計画に従い本市の顔としてふさわしい中心市街地のにぎわい創出を図ります。

6.2.2 地区の課題

重点整備地区に位置付けられた3つの地区では、以下のような課題が見られます。

表 各地区の現況と課題

	地区の現況と課題
宇部新川駅周辺地区	まちの玄関口である宇部新川駅や駅前広場を中心としたエリアであり、渡辺翁記念会館等の文化施設も立地している。 ホテル等の宿泊施設があることから、市民のみならず、市民と市外からの来街者の交流を促し、にぎわいを創出していくことが求められる。
市役所周辺地区	市役所を中心に行政機関や金融、商業、医療、福祉等の多様な都市機能が複合的に集積している。 これらの機能を必要に応じて更新・維持・強化しながら、利便性の向上と利用者の増加により、にぎわいを創出していくことが求められる。
中央町三丁目地区	第一地区は、土地区画整理事業により、良好な住宅ストックが形成されている。 第二地区は、住宅市街地総合整備事業等により、良好な住環境を創出するとともに、職住が近接したまちづくりにより新しい居住ニーズを掘り起こす等、まちの活力の基礎となる居住人口の増加を図り、にぎわいを創出していくことが求められる。

6.2.3 まちづくりの方向性

1) 宇部新川駅周辺地区(にぎわいエントランスゾーン)

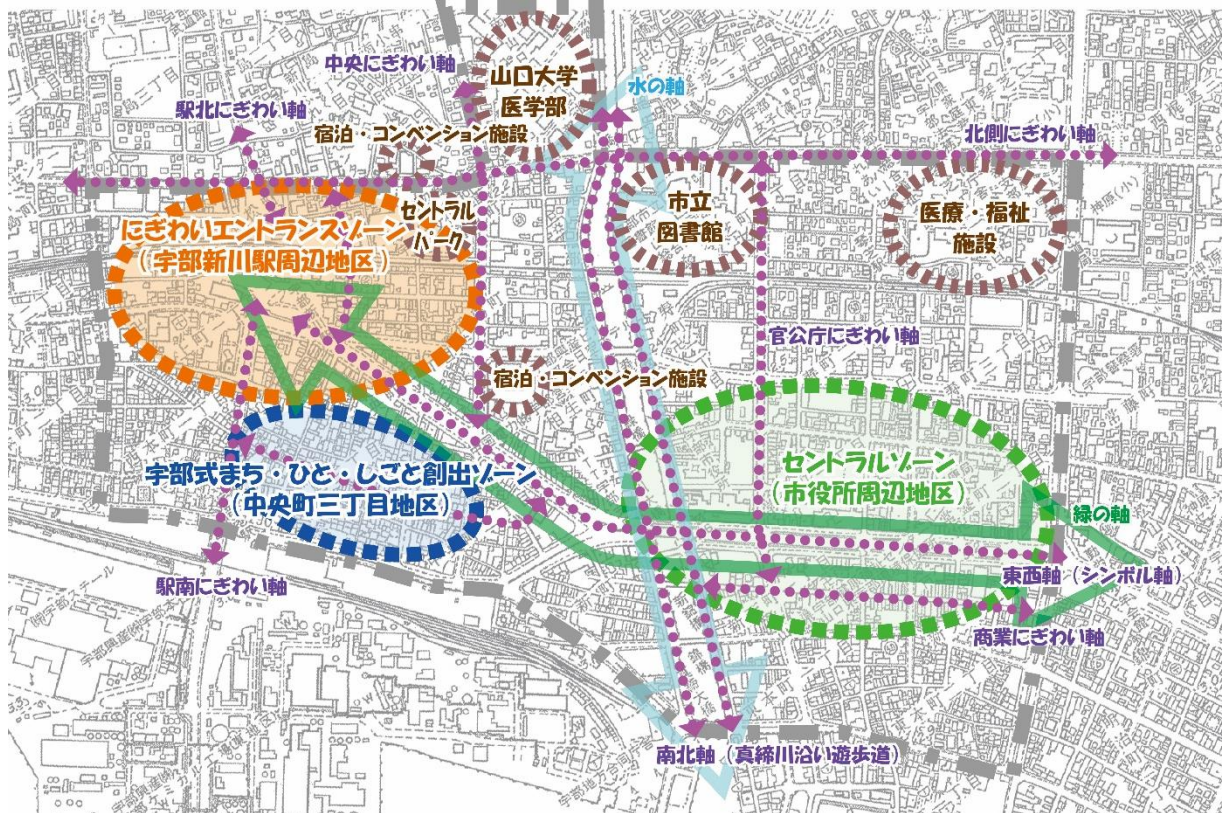
市の玄関口として多くの交流や文化・経済活動が行われるにぎわいあるまちの実現に向け、バス等のアクセス機能の強化に加え、既存文化施設等を活用しながら、文化交流・経済交流が行われるような魅力的な空間整備を推進します。

2) 市役所周辺地区(セントラルゾーン)

水と緑豊かな市役所周辺において、多くの人々がうるおいを感じながら交流できる環境づくりのため、複合的な機能、優れた環境性能を持つ新市庁舎の整備や、水と緑の軸の交点(中心市街地の中心)としてのシンボリックな交流空間の整備を推進します。

3) 中央町三丁目地区(宇部式まち・ひと・しごと創出ゾーン)

宇部新川駅との近接性を活かし、職住や生活支援機能がそろそろ便利なまちなか居住のライフスタイル確立に向け、中心市街地に居住する人々の日常生活を支える身近な福祉や子育て支援機能と一体的に居住機能の強化を行います。また、まちなかに若者を呼び込むため、工学・医学系大学や全国有数の企業が立地している特性を活かし、インキュベーション（カルチャー・創業）機能等を誘導します。



出典：宇部市にぎわいエコまち計画（2015年）

図 3地区の役割分担と連携のイメージ

6.3 ときわ公園の魅力向上

6.3.1 ときわ公園の位置付け

ときわ公園は、市民の憩いの場であるとともに、本市の貴重な観光施設であり、多くの方々に利用されている総合公園です。1969 年をピークに年間入園者数の減少が続きましたが、多彩なイベントの開催やときわ動物園のリニューアル整備等により、入園者数が大幅に増加しています。

今後もしきわ公園の更なる入園者の増加に向け、ときわ公園活性化基本計画（改定）に基づき、ブランド力強化のための取り組みを推進します。

6.3.2 ときわ公園の課題

ときわ公園には、以下のような課題が見られます。

表 ときわ公園の課題

	課題
ときわ動物園	2016年春にグランドオープンし、野生動物の生息環境を再現することで本来の行動を発揮させる「生息環境展示」を採用したことが特徴。 ソフト面の充実等により動物園としての魅力を向上させ、新たな観光客の開拓やリピーターの確保等さらなる集客を図っていく必要がある。
彫刻文化の継承	世界で最も歴史のある野外彫刻の国際コンクール「UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）」が2年に一度開催され、「彫刻のまち」の象徴として、本市の文化を発信する役割を担っている。 近年、UBEビエンナーレの認知度も上がってきており、本市の貴重な資源である彫刻を、市民の誇りと満足度の向上につなげていくためのさらなる対策が必要である。
ときわミュージアム	植物と彫刻を展示する全国でも稀な複合博物館で、開館20周年を迎え、熱帯植物館のリニューアルが必要である。
常盤湖・花木・自然	常盤湖を囲む緑豊かな里山があり、自然に恵まれている。ウォーキング等を楽しむ市民が安心して利用できるよう、周遊園路の舗装整備や利用者の休憩場所が求められている。 また、ショウブ苑やボタン苑等の環境改善も求められている。
その他の施設	1969年に建設された石炭記念館や古民家「憩いの家」は、施設の老朽化が進んでおり、改修が必要である。 わかりやすい案内表示の改善や多言語化等外国人観光客への対応も求められている。
エコパーク化	産学公協働で推進してきた次世代エネルギーを活用し、普及啓発する取り組みが2012年に経済産業省から「ときわ公園次世代エネルギーパーク」計画として認定され、ときわ湖水ホール等の主要施設に再生可能エネルギー設備を導入している。 今後は、次世代エネルギーや省エネに係る導入済みの設備を利用した各種環境学習プログラムの確立が必要である。

6.3.3 特色ある取り組み

ときわ公園のブランド力強化のための取り組みを推進します。

1) ときわ動物園

霊長類を中心とした貴重な動物種に加え、特徴的な小動物も導入し、魅力ある展示を行います。また、「ふれあい動物広場」の常設や、展示施設等の中に入り、動物を間近に観ることができるウォークインイベント等を通して、生命の大切さや自然環境を学ぶ機会を創出します。

その他、飼育員やボランティアによるガイドの充実等、おもてなしの強化に取り組めます。

2) 彫刻文化の継承

彫刻に対する市民の関心を高めるため、彫刻周辺の環境改善や見せ方の工夫により、わかりやすく魅力的な彫刻の鑑賞空間づくり等に取り組めます。また、「UBEビエンナーレ」を観光資源の一つとして、彫刻の文化と魅力を国内外に積極的に発信します。

3) ときわミュージアム

原産地ごとにエリア分けした植物展示やシンボルとなる植物を活かした展示等、「世界を旅し、感動する植物館」をコンセプトに、リニューアル整備に取り組めます。また、植物ガイドや体験型イベントの充実等により魅力向上を図ります。

4) 常盤湖・花木・自然

常盤湖を視対象としたあずまややベンチの設置、周遊園路の整備等風景を楽しみながら安心して散策等に利用できる環境づくりを行います。

また、さくらまつりやしょうぶまつり等季節の花木を活かしたイベントの拡充を図るとともに、ショウブ苑等の環境整備や花いっぱい倍增計画を推進し、癒しの空間と憩いの場を創出します。

5) その他の施設

石炭記念館のリニューアル整備を検討しながら、展示手法や展示物の見直しを行い、本市の歴史を体感できる施設をめざします。

また、古民家「憩いの家」の改修を行い、文化の拠点づくりに取り組めます。

その他、入園者にわかりやすい施設等への案内表示板を設置するとともに、Wi-Fi環境の整備や多言語表記化を推進します。

6) エコパーク化

ときわ公園の中で再生可能エネルギー発電を行い、常時利用することでエネルギーの地産地消を推進するとともに、非常時の電力確保による防災性の向上を図ります。また、次世代エネルギーの体験学習の場として活用を図ります。

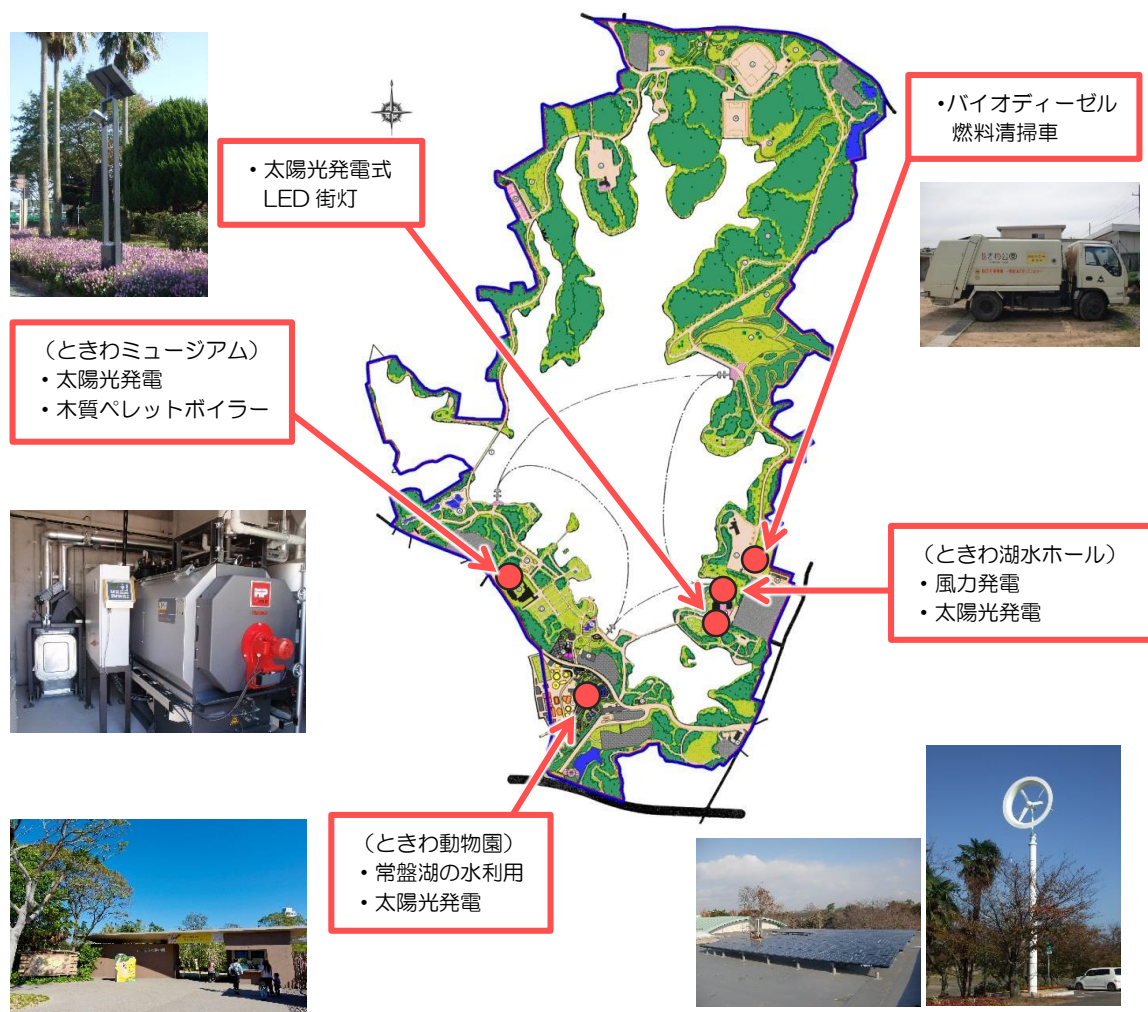


図 再生可能エネルギー発電設備等導入済み箇所

6.4 スマートコミュニティの推進

6.4.1 スマートコミュニティの位置付け

1) 目的

東日本大震災を契機として、電力供給の制約が顕在化し、需要側においても地域単位で節電等に取り組むことの重要性が高まっています。また、大規模集中型のエネルギーシステムの脆弱性が明らかになり、災害にも強い再生可能エネルギー等の分散型エネルギーシステムの地域レベルでの導入や、さらには再生可能エネルギーの大幅拡大に伴う出力変動をシステム全体で吸収することの必要性が高まっています。こうした課題に対応するため、地域のエネルギーを総合的に管理し、エネルギーを創り、蓄え、賢く使う、スマートコミュニティを推進します。

2) 対象エリア

人口密度が高いため家庭部門や業務部門の電力需要が高く、かつ生活の重要拠点となる施設や公共施設が集積している中心市街地を普及対象エリアとします。

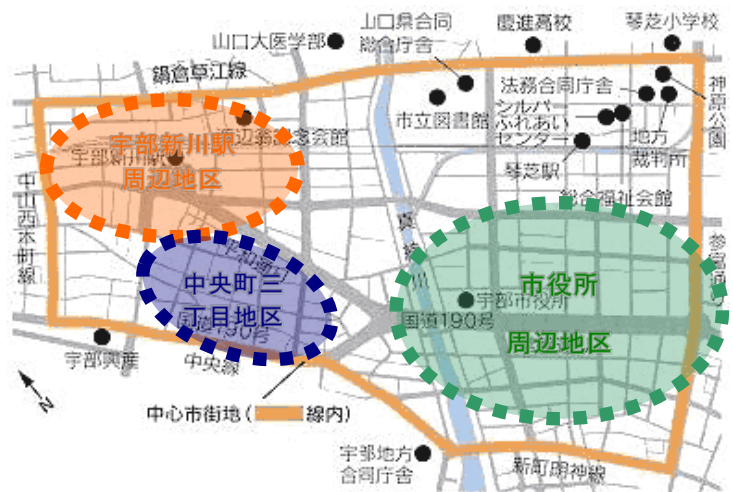


図 宇部市中心市街地

6.4.2 中心市街地での取り組み

中心市街地における重点整備地区において、スマートコミュニティの構築に向けた取り組みを推進します。

1) 宇部新川駅周辺地区

宇部新川駅周辺は、市の玄関口であり、来街者がスマートコミュニティを認識できるようなシンボリックな施設整備を検討します。

2) 市役所周辺地区

新市庁舎の建設にあたっては、省エネ・創エネに対応し、設計段階から環境に配慮したCASBEE（キャスビー：建築環境総合性能評価システム）を取り入れるとともに、運用面でもBEMS（ビル・エネルギー・マネジメントシステム）を取り入れたスマートなビルとなるよう検討します。また、都市防災や高齢化社会に対応していくため、スマートコミュニティを活用して、災害対策と一体となったまちづくりや、高齢者世帯の安否確認のシステム整備、電動カートの充電スタンド設置等の施策について検討します。

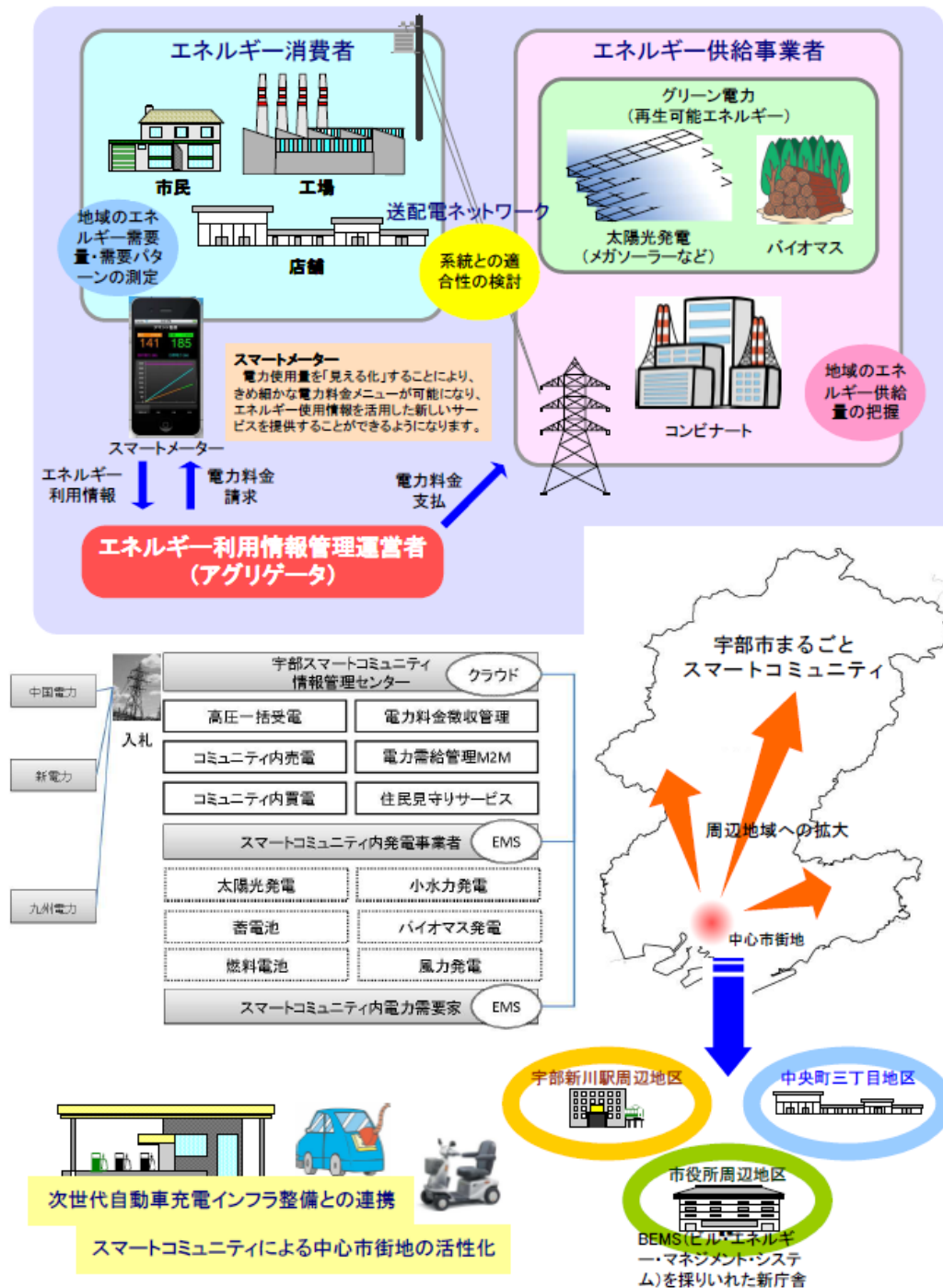
3) 中央町三丁目地区

中央町三丁目地区では、エネルギーの側面から「まちなか環境学習館」の活用を図るとともに、現在施行中の住宅市街地総合整備事業等と連携したスマートコミュニティの構築について検討します。

6.4.3 市全域への普及

本事業は、当面、中心市街地を対象エリアとしますが、将来的には周辺地域へと拡大して、本市の様々な地域においてスマートコミュニティを展開し、「宇部市まるごとスマートコミュニティ」の実現を図っていきます。

スマートコミュニティを市全域へ普及させるために、市内各所に拠点地区を整備していきます。各拠点が連携することにより、市全体としてスマートコミュニティを形成していきます。



出典：宇部市スマートコミュニティ構想（2014 年）

図 宇部市スマートコミュニティ構想（イメージ）